

ハワイ島ヒロにおける ハワイ観測所の広報普及活動

布施 哲 治

〈国立天文台ハワイ観測所 650 North Aohoku Place, Hilo, Hawaii 96720, USA〉
e-mail: Tetsuharu.Fuse@SubaruTelescope.org

文部科学省国立天文台ハワイ観測所では、インターネットによる情報発信のほかに、テレビ会議システムを用いたハワイから生中継のレクチャーなど、日本国内にとどまらず世界に向けた広報普及活動を積極的に進めています。今回はその中から、観測所のある地元ハワイで開催しました3つの講演会についてご報告いたします。

1. はじめに

国立天文台ハワイ観測所は、1997年4月1日、ハワイ諸島で最大の島ハワイ島に発足しました。ハワイ観測所の中核である山麓施設は、ハワイ島の東側の町ヒロにあるハワイ大学ヒロ校 (University of Hawaii at Hilo, UHH) のユニバーシティパーク内にあります。約70名のスタッフが勤務するこの施設には、観測データを処理する計算機室や装置の調整を行なうシミュレーター室、図書室、事務室などがおかれています。ハワイ観測所が運用する大型光学赤外線望遠鏡のすばる望遠鏡は、山麓施設から車で約2時間、標高4,200メートルのマウナケア山頂に位置します。

2. すばるレクチャーシリーズ

UHHにて教鞭をとる本田正文氏から、地元の方々に向けた天文学の講演会を開催したらどうかという提案がハワイ観測所にありました。日本の国立研究機関であるハワイ観測所やすばる望遠鏡の建設意義やその活躍を、ハワイの社会に説明し、理解を求めることは非常に大切です。講演会は1回限りではなく、定期的開催するという意味をこめて、すばるレクチャーシリーズ：ドリーム オン

マウナケア (Subaru Lecture Series: Dream on Mauna Kea) と名づけ、ハワイ観測所の重要な広報普及活動に位置づけられました。

その第一回目の講演会が2000年12月9日にUHHのヒロシアターにて行われました。このシアターは、600名が入れるほどの大きな施設です。ヒロはたいへん雨の多い町ですが、講演会当日の土曜日は一日よいお天気に恵まれ、150名以上の方々が参加してくださいました。事前準備や当日の会場セッティング、受け付けなどの作業は、UHHの本田氏と学生ボランティアの協力により行なわれました。

講演会は、ハワイ式の開会の詠唱 (チャント) に始まり、ローズ・セン UHH 学長による開催の挨拶がありました。続いて、安藤裕康ハワイ観測所長による講演『Where the stars are guiding us (すばるに導かれて)』です。約30分の間に、すばる望遠鏡に組み込まれた高度技術や、ファーストライト後の成果が紹介されました。参加された方々は、すばる望遠鏡の活躍を深くご理解いただけたと思います。

講演の後は、U.N. Limited 制作の映画『Makalii - Little stars in the Big Island (マカリイー大きな島の星の子達)』の上映を行いました。この映画の主人公は、日本から赴任している観測所スタッフの子



写真1：安藤裕康所長による講演

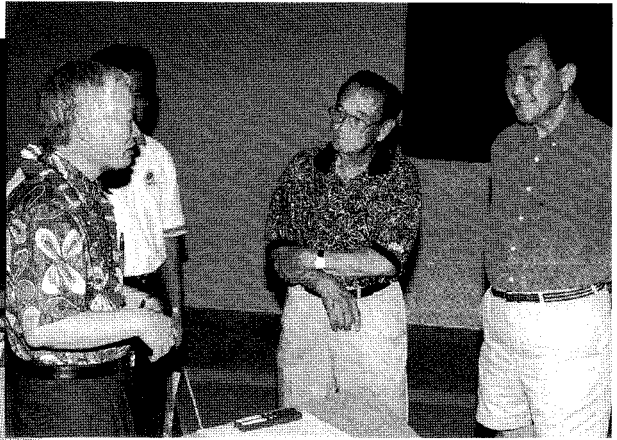


写真2：講演会後のロビーにて、参加した方々と歓談をする安藤所長（左）。

供達です。ヒロの学校や家庭での生活ぶりが、インタビュー形式でまとめられています。マカリイは、ハワイ語で「小さい目」のことです。さらにはプレアデス星団、つまりメシエ天体45の「すばる」も意味しています。映画の後半には、すばる望遠鏡のドーム脇から「すばる」や月が上ってくるシーンがあり、とても幻想的な作品に仕上がっています。

すべてのプログラムが終了した後、シアターのロビーでは参加した方々との歓談がありました。私がお話をした方の中には、すばる望遠鏡の成果を教材に使いたいという学校の先生や、次回も楽しみにしているという親子連れがいらっしゃいました。

3. オニヅカ・サイエンス・デー

14年前の1987年1月27日、打ち上げ直後のスペースシャトル・チャレジャー号が爆発する事故がありました。まだご記憶に新しい方も多いと思います。そのスペースシャトルにミッションスペシャリストとして搭乗していた宇宙飛行士に、エルソン・オニヅカ氏があります。彼は、ハワイ観測所があるハワイ島の出身であり、初の日系人宇宙飛行士として注目されていました。オニヅカ氏の生まれ

たコナは、ヒロから車で約2時間のハワイ島の反対側にあります。日本から直行便が飛んでおり、またヒロに比べて晴天率が高いことから、観光地として賑わっている町です。

今年から、オニヅカ氏を追悼して『オニヅカ・サイエンス・デー』というイベントをUHHが主催することになりました。その内容は、UHHキャンパスにおいて、天文学や海洋学などに関するワークショップ・講演会を開催するというものです。2001年1月27日の土曜日に行なう第一回目のイベントへの協力の要請が、UHHからハワイ観測所に行きました。参加者は、ハワイ島内の小中学校の生徒とその保護者です。そこでハワイ観測所として、すばる望遠鏡の成果をまとめた展示パネルとQ&Aコーナーの出展、さらに映画『マカリイ』の上映を行うことになりました。

イベント当日は、ときおり雨もまじる日となりましたが、600名を超える参加者がありました。ハワイ観測所の展示パネルやQ&Aコーナーも、たいへん盛況でした。すばる望遠鏡の主鏡の大きさを聞いて驚く小学生、「2,400万光年をマイルでいうと、どれくらい？」という質問の保護者など、多くの方々を訪れました。図書館の視聴覚室で行わ

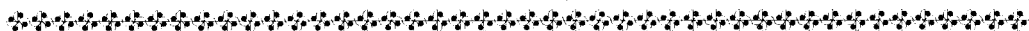


写真3：すばる望遠鏡の展示パネルとQ & Aコーナー



写真4：宇宙服を着て舞台上に登場するローズ・センUHH学長(右)

れた映画マカリイの上映会も、また賑わいをみせていました。

ヒロシアターにおいて行なわれた式典は、非常に迫力のあるものでした。宇宙服を着たセンUHH学長が、ライトアップされたドライアイスのスモークの中から、壮大な音楽と共に舞台上に登場したのです。会場に集まった生徒たちの「ウォー」という歓声と大きな拍手で出迎えられたその光景は、さすがアメリカだな、と思わせるものでした。

学長による挨拶の後、オニヅカ氏の生誕から、宇宙飛行士として活躍している姿をまとめた映画が上映されました。NASAのバックアップのもとに

仕上げられたこの映画は、非常に興味深いものです。現役の宇宙飛行士達がオニヅカ氏について語っているインタビューや、スペースシャトルから地球の姿など、さまざまな美しい映像が私達を魅了しました。

次に、研究のためハワイに滞在中でした小平桂一前国立天文台長による講演です。タイトルは『Deep into the Space (宇宙の彼方へ)』。「宇宙に人間以外の生命がいると思うか?」という

質問で始まった講演は、会場を埋め尽くした生徒たちとインタラクティブに進められていきました。みな競い合いながら手を挙げて発言する姿に、自分の考えをはっきりと述べるアメリカらしさがあらわれていました。

最後は、宇宙飛行士スティーブン・ホーリー氏による講演がありました。ホーリー氏は、これまでに5度の宇宙飛行を経験しているベテラン宇宙飛行士です。特に、1997年に行われたハッブル宇宙望遠鏡の第二回目の修理ミッションに参加するというすばらしい経歴を持っています。NASAの青色のスーツで登場したホーリー氏の講演は、ご自身の体験談やオニヅカ氏のエピソードを交えた、魅力のあるトークでした。

4 再びすばるレクチャーシリーズ

オニヅカ・サイエンス・デーの3日後の2001年1月30日、Subaru Lecture Seriesの二回目の講演会を前回と同じUHHヒロシアターにおいて開催しました。平日夕方の開催であったにもかかわらず、300名以上の方にお集まりいただきました。

講演は、小平氏による『How much have we understood the Universe (人類は宇宙をどこまで知っているか)』。遠い宇宙を見ると、何がわかるか? すばる望遠鏡が捉えた惑星、星雲、銀河系、系外銀河

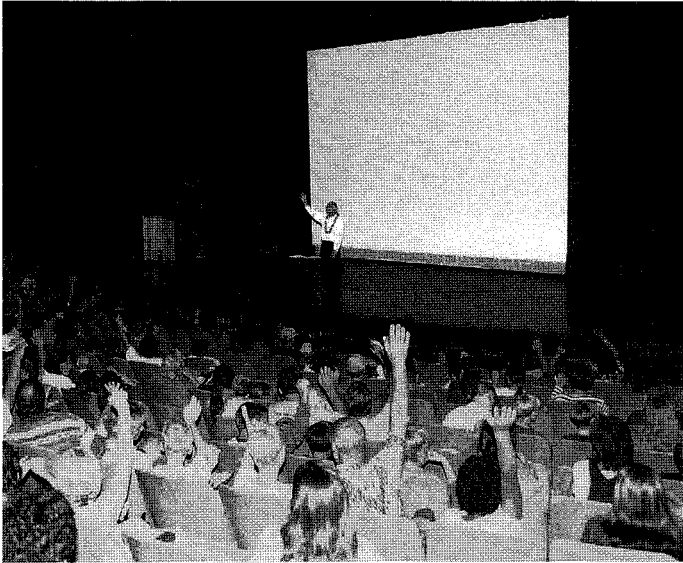


写真5：小平桂一前国立天文台長による講演

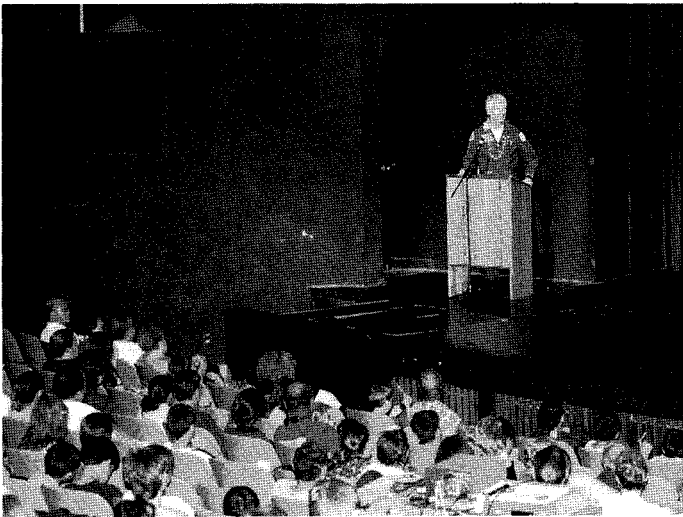


写真6：宇宙飛行士ステイブン・ホーリー氏の講演

などの天体画像をもとにして進められた話には、参加者全員が引き込まれている様子でした。

第一回目と同様、講演の後に映画の上映を行いました。タイトルは『Toward the Edge of the Universe (宇宙の果てに挑む)』。ストーリーは、ガリレオ・

ガリレイが自作した口径 4.2cm の望遠鏡から口径 8.2m のすばる望遠鏡までの望遠鏡発達史と、いま現在我々が知り得る宇宙観に関する解説をドキュメンタリータッチに描いたものです。実はこの映画には、国立天文台に滞在している外国人研究者が役者として出演しています。

Subaru Lecture Series は、ハワイ観測所がある地元の方々に、宇宙の神秘に触れていただける機会です。観測所では、UHH との協力のもと、これからも講演会を開催していく予定です。

5 おわりに

世界中の天文学者がすばる望遠鏡を利用する共同利用観測は、2000年12月より始まりました。今後は、観測より得られた科学的成果をいち早くみなさまにご報告できるよう、努力を続けてまいります。どうぞご期待ください。

Subaru Outreach Programs in Hawaii

Tetsuharu FUSE

Subaru Telescope National Astronomical Observatory of Japan 650 North Aohoku Place, Hilo, Hawaii 96720, USA

Abstract: Subaru is an 8.2 m optical-infrared telescope located at the summit of Mauna Kea, Hawaii. We have started its open use for general astronomers in December, 2000. The public relations team at the Subaru telescope has been displaying various activities since its first light in early 1999. In this article I will introduce three Subaru lectures which we, under co-sponsorship of the University of Hawaii at Hilo, arranged for the local people.